

学校番号	学 校 名	校 長 名
定 5	川崎市立高津高等学校定時制	山口 尚史

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1. 個人としての尊厳を自覚し、自主的精神をもって、民主社会で責任ある行動を果たし得る人格を育成する。 2. 学力を充実させ、合わせて、すべての物事に対し適切な判断を下せるように、客観的な思考能力を育成する。 3. 教養を広め、情操を養い、豊かな文化的生活を営み得るよう、人間性の開発と高揚に努力する。 4. 健康な身体と基礎的な生活能力を養い、勤労意欲を高め、実社会において着実有能な活動をなし得る人材を育成する。 5. 広く国際社会に視野を広げ、人類共同の連帯感に目覚め、その福祉と発展のために参加し得る人間を育成する。	1. 豊かな心の育成 思いやりの心の育成 「いのち」を大切にする心の育成 基本的生活習慣の確立	・いじめ根絶に向けた継続的な指導の実施 ・共生共育プログラムによる人間関係の構築 ・様々な背景を持つ生徒一人一人の適正に応じたきめ細かな支援と家庭や外部器専門機関との連携体制 ・挨拶、時間を守る等の集団生活での基本的なマナーの指導の徹底 ・SOSの出し方受け止め方教育の推進
	2. 確かな学力の充実 基礎・基本の確実な定着 「分かる授業」の推進 思考力・表現力・判断力の育成	・身につけさせたい力を明確にした授業実践と指導方法の改善に向けての取り組みの推進、授業時間確保の検討 ・基礎・基本の定着を図る授業の実践 ・学習意欲を高める授業の展開と実践・主体的に学び続ける態度を養う教育活動の推進 ・指導と評価の一体化を図るための観点別評価評定の実践と研究 ・タブレット端末の活用等、ICT教育の推進
	3. 魅力ある学校づくり 特色ある教育活動の推進 キャリア教育の推進 学校評価の充実	・主体的に探究する態度を育む教育活動や総合的な探究の時間の整理・一元化と推進 ・自己の在り方生き方のキャリア教育の推進 ・生徒の可能性を引き出す進路指導の推進 ・定時制自立支援事業と就労支援員との連携の推進 ・地域や社会と連携した教育活動とPDCAによる学校組織や教育活動等の活性化の推進
	4. 安心・安全な学校づくり 安全教育の推進 防災教育の推進 安全な教育環境づくりの推進 安全な教育環境づくりの推進	・計画的な防災訓練、避難訓練の実施、行政や地域と連携した避難所運営の研究 ・交通安全と自転車マナーの指導の徹底 ・未全防止に向けた安全管理・確保の体制の充実 ・学校施設・設備の改修に向けた教育環境の整備 ・防犯意識の高揚

評価項目	具体的な取り組み	実践状況及び課題	具体的な改善策
1. 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学期の初めおよび必要に応じて登校指導を実施 各学期末に三者または個人面談を実施 学校生活についてのアンケートを年2回実施 4月に「セルフチェック」の実施 外部講師によるソーシャルスキル講演会を1・2学年/3・4学年に分けて実施 家庭との連携体制の充実 基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校で不安や悩みなどを十分に先生に相談できているか」どうかのアンケートで「そう思う」「概ねそう思う」合わせて68%で、不安を抱えている生徒が多くいることがうかがえる。 いじめ防止対策として、様々なアンケート調査から、未然防止・早期発見に取り組み、今後の指導方針を確認した。 「ソーシャルスキル講演会」では就労に向けて必要なスキルや、自分自身を知る貴重な機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「友人として望ましい人間関係を築いているか」どうかのアンケートでは「そう思う」「概ねそう思う」を合わせて80%であり、昨年度より数ポイント減少している。講演会などにとどまらず、個々に応じたソーシャルスキル養成の機会を充実させる必要がある。 様々な調査結果を元にしながら、日常での生徒の少しの変化に「気づく」ため、日頃からの生徒との人間関係構築に努める必要がある。
2. 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・興味・関心を把握したわかりやすい授業の実践 基礎・基本の定着を目指した授業の実践 授業を通して「客観的に物事を捉える力」と「相手に的確に物事を伝える力」の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業がわかりやすい」との回答は90%であり、昨年同様高い割合となっている。 「授業に積極的に取り組んでいる」との回答は81%で昨年並みであり、学習に対する意欲が高まっていると思われる。 保護者のアンケート結果では授業について「満足」と「概ね満足」を合わせて66%であり、昨年と同様ではあるが、「不十分」が若干増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に「わかる授業」を展開していくとともに、思考力・表現力・判断力の育成のために引き続き工夫を重ねていく。 生徒一人ひとりの学習に対する意欲や目標を把握しながら授業改善を進めていく。 各教科の授業でなく「総合的な探究の時間」やキャリア教育、HRの時間などあらゆる機会を利用して、生徒の学習意欲の向上を図ることが大切である。
3. 魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心とした行事の企画・運営、常任委員や各種委員会の主体的な参画、生徒会年間スローガンを目標とした活動 生徒会を中心とした行事の企画・運営 各学年の実態に即した「総合的な探究の時間」の充実 学校評価の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会常任委員会を中心とした活動ができた。行事に対する生徒アンケートでは、「積極的に参加している」という質問に対し、「そう思う」「概ねそう思う」合わせて79%と昨年度に引き続き生徒全体の意識を維持できている。 職員アンケートでは「キャリア教育の推進」の項目で、「満足」「概ね満足」合わせて83%と昨年度より増加している。しかし、「キャリア教育」「自立支援」という言葉の中にも様々な切り口があり、より充実した支援体制などに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も生徒を主体とした生徒会活動が行えるように、十分な時間的配慮と環境を整備していく必要がある。特に体育祭と文化祭はより多くの生徒が関わりを持ち、学校の一体感が味わえる絶好の機会ともなるので、継続的に工夫を重ねていくことが大切である。 本校の魅力が一層高まるよう、行事や校内活動の活性化を図るとともに、キャリア教育については生徒個々の多様な状況に対応できるよう工夫を重ねていく必要がある。
4. 安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練及び防災教育の実施（9月、12月） 居住地域別帰宅グループを組織しての避難訓練 交通安全教室の実施（1学年） 感染症防止に継続的に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 「避難方法や帰宅までの手順」を理解できている生徒は88%であり、昨年度とほぼ同じであるが今後も継続的に工夫して取り組む必要がある。 避難訓練は今年度も停電を想定し、避難場所の体育館の照明を落として実施した。 交通安全は昨年度より、1学年において5月に実施し、通学時の事故防止等に活かすことができた。 感染症対策についてのアンケートでは、生徒・保護者・職員とも大きな変動はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区別帰宅グループに分かれての避難訓練も定着してきたが、必要に応じて手順を見直し、よりわかりやすいものになるように取り組む。また、引き続き防災学習の実施も検討を続けていくことが大切である。 あらゆる状況を想定した避難内容を工夫した計画を考える必要がある。 新型コロナウイルスが5類となったが、手洗いうがいの励行や、体調不良時の対応など、引き続き対策を行っていく必要がある。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習に対する意欲が高いので、維持できるように新しいカリキュラムに合わせて指導内容を工夫していく。 行事への取り組みが学校生活の充実につながっているため、職員、生徒が協働できる場を増やしていきたい。 自立支援事業のカフェは多様な課題を抱えている生徒にとっての居場所として定着してきているので、今後も協力を仰いでいきたい。 感染症対策は一定の成果がみられるので今後も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・生徒・職員を対象として学校評価アンケートを実施し、その結果から今年度の取り組みを振り返り、新たな問題点や改善点を明らかにできた。 校務分掌・委員会・学年・教科が一体となり、効果的に学校運営が改善されるよう取り組み、生徒の学習をサポートしていく。 新学習指導要領による教育課程の変更点や、生徒に身につけてもらいたい資質や能力の策定など、引き続き計画的に研究を続けていく。 ネットワーク環境を整備し、同時に、情報セキュリティを一層徹底していく。 感染症に関して校内での広がりがみられなかったことから、今後も継続して対策を行っていく。